

保全の豆知識 暖房を正しく機能させるためには！

暖房運転前の執務室等の点検

(営繕部 保全指導・監督室)

今回は過去に実施した保全実地指導で、空調設備に関して、多く見受けられた不具合事例をいくつか紹介します。暖房運転前に、皆さんが管理する施設でも同じような状況になっていないか、今一度点検確認をお願いできればと思います。

【事例1：空調用センサー付近を点検しますか？】

空調用温度センサー付近に大型複合機などが設置されていたため、空調温度制御に影響があります。(写真1)

空調用温度センサー直下に、大型複合機などの発熱を伴う機器が設置されていると、室温が実際より高く計測され、暖房時の場合は室内が暖まらず、冷房時の場合は冷え過ぎの原因になります。(写真1)

適正な室温設定を保つため、発熱を伴う機器は、空調用センサー付近に設置しないでください。



写真1 空調温度センサー付近の複合機

【事例2：空気の通り道は大丈夫ですか？】

建物内にブラインド状の羽根板を平行に取り付けられた壁面や扉があります。これは「ガラリ」あるいは「スリット」と呼ばれ、空調や換気のための空気の通り道です。この「ガラリ」が塞がれていると、建物内の空気が正しく循環しないため、空調温度の乖離や扉隙間での風きり音の発生の原因になります。ガラリは塞がないようにしてください。(写真2, 3)



写真2 棚で塞がれた壁面ガラリ



写真3 厚紙で塞がれたドアガラリ

【事例3：エアコン屋外機確認してますか？】

エアコン屋外機が固定されていなかったり、
架台が劣化している事例です。（写真4,5）

機器が倒れて、事故（物損・人身）や暖房運
転が出来ない恐れがあります。

機器類の固定状況の確認をお願いします。

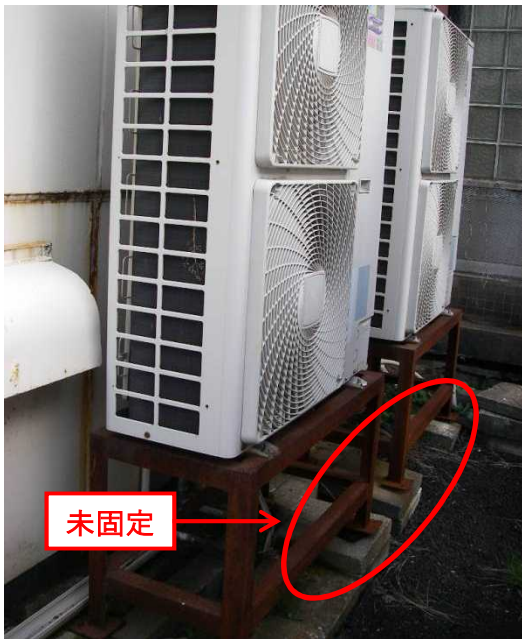


写真4 エアコン屋外機未固定



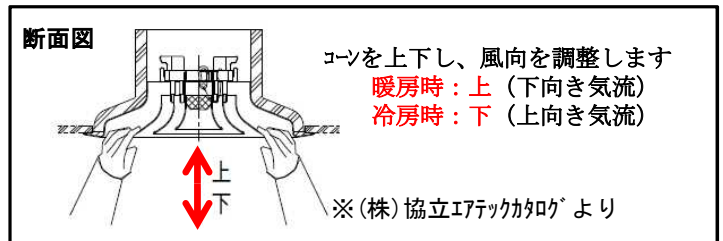
写真5 架台が劣化し傾いたエアコン屋外機

【事例4：暖房運転の準備終わってますか？】

一般的に、全館空調で冷暖房を行っている施設
の天井には、シーリングディフューザー（天井吹出
口）（写真6）が付いています。このタイプの吹出
口はコーンを上下し、「冷房運転時」と「暖房運
転時」の切り替えを行います。（図1）



写真6 シーリングディフューザー



運転前にコーン調整を行い、気流を変える必要があります

冷房時＝コーンを下げる

暖房時＝コーンを上げる

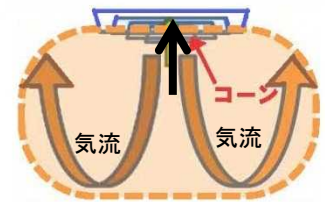
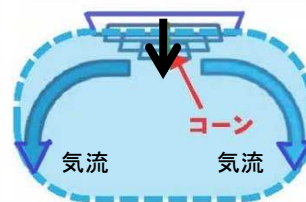


図1シーリングディフューザーの冷暖房切替図